

進路について考えてみる

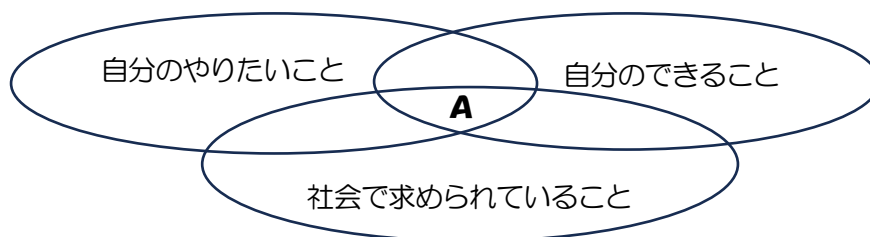
面接週間の間に、何人か進路について相談に来たり、あるいは担任の先生から、面接でこういう話題が出ましたと相談しに来てくれたりと、進路室がほんの少し賑わいました。もちろん、相談は様々なのですが、そういった相談を通じて改めて思ったことを、そこはかとなく書きつくってみます。

もちろん、やりたいこと、行きたい大学が明確にある人は、そこに向かって頑張るだけなので、何も言うことはないと思います。ただ、この時期は、「やりたいことがない」とか「何をしたらいいかわからない」という人が多い時期でもあります。1年生であれば、「ようやく高校入試が終わったのに、また目標を立てなければいけない」、2年生だと、「目の前の部活や授業で精いっぱいなので、その後のことは考えられない」、3年生だと、「卒業まで1年を切ったけど、どの大学を受ければいいかわからない。目標に対して今の自分の学力が足りないような気がするけど、目標をどう変えるか（変えない方がいいのか）わからない」など、まあ、悩みの種は尽きません。

安心してください、みんなそうです。はっきり言って、このぐらいの悩みは、大人も同じです。多分、目の前の先生・親御さんも、大なり小なり似たような悩みはずっと抱えています。要は、そういった悩みとどう折り合いをつけていくのか、ということについて、やっぱり大人の方が経験もあり、慣れっこなっているというぐらいでしかありません。

とはいえ、やはり10代のみなさんにはある程度の指針があるとよいですね？そこで、去年の「進路室の窓から」でも紹介した、進路を考えるにあたって考えるべき3つの要素を再掲します。

＜・自分のやりたいこと / ・自分のできること / ・社会で求められていること＞



改めて説明すると、上のベン図の **A** で示されているところが、その人にふさわしいであろう仕事（さらに言えば生き方）になる、という考え方です。多分、「自分のやりたいこと」「自分のできること」はイメージできると思うのですが、「社会で求められていること」とは何でしょうか？簡単にイメージするなら、「給料がもらえること」と言ってもよいと思います。どんなに自分のやりたいことだったとしても、誰かに求められなければ、お仕事にはならないですし、一方、どんなに給料がよかったとしても、自分のできることでなければ、ふさわしくない、ということになります。

さて、今進路について悩んでいる人の多くは、「自分のやりたいこと」「自分のできること」の円がまだ小さいことが課題なのだと思います。例えば「自分のやりたいこと」を一度書き出してみるのをおすすめです。書き出してみると、案外いろいろ出てきます。ですが、それだけではありません。去年も書きましたが、改めて重要な法則を書きます。それは、「人は、知っていることしかやりたいと思わない」「知らないことをやりたいと思う人はいない」です。

つまり、「あなたのやりたいこと」とは、「あなたの知っていることの範囲の中でしかない」ということです。

「進路室の窓から」も含めた進路指導の中で重要だと思っているのは、みなさんの視野に入っていなかった進路情報の提供を通じて、「知らなかったけれども、調べてみたら、案外自分に合っているかも」というような感覚を得られた人がちょっとでもいるようにしたい、ということです。とはいえ、提供された情報そのものを鵜呑みにしないで自分で調べてほしいですし、もちろん、初志貫徹を果たす人も素晴らしいと思います。

ちなみに、学校で勉強するように声をかける最大の理由は、この図で言う「自分のできること」の輪をどんどん大きくしてもらうためなのです。「できること」の輪が広がっていき、「やりたいこと」を内包してしまえば、やりたいことは全部できる、ということになりますね。

なかなか進路について考えるのは大変ですが、ちょっとずつでも考えて、よりよい進路選択ができることを願っています。

面白そうな大学について

やはり「知らないこと」はいっぱいあり、見落としてしまうような大学・学部・分野があります。すべてを網羅することはできませんが、いろいろ紹介して、ちょっと興味を持ったり、視野が広がってくれたらうれしいです。

東京海洋大学 海に関しては唯一無二・文系からも進学できる(2年前に紹介したものの改訂版です)

東京海洋大学は、2003 年に開学した、比較的新しい大学ですが、東京海洋大学は、**東京商船大学**と、**東京水産大学**という共に 100 年以上の歴史をもつが統合してできた、実は名門の国立大学です。

東京商船大学は、1875 年に設立された**三菱商船学校**(大久保利通が岩崎弥太郎に作らせた)をルーツとしています。商船学校の目的は、外洋で大型の商船を運用するための、航海士と、機関士の養成でした。大正期には「**東京高等商船学校**」となり、戦後には「**高等商船学校**」が再編統合されて国立「**商船大学**」になります。ちなみに 1949 年から 1957 年にかけて、この「**商船大学**」は清水市(当時)にありました(東京は分校)。1957年に商船大学は東京に移転することになり、「**東京商船大学**」と名称が変わりました。貿易立国である日本にとっては、超重要な大学であり、外洋航路の高級船舶職員を養成してきました。

一方、**東京水産大学**は、1888年に設立された「**大日本水産会水産伝習所**」をルーツとしており、いわゆる水産業(メインは魚ですが、その他海の生物・漁村文化まで研究対象)に関する研究を行ってきた大学です。

この2つの大学が 2003 年に統合してできたのが**東京海洋大学**です。こと「**海**」に関する研究に関しては、**他に類を見ないレベルの高さ**であることは間違いありません。海洋生物から、海洋資源、船舶の構造、船舶の運用、さらに物流まで、研究対象は様々です。基本的に理系の大学なので、なかなか文系からは進学しにくい大学ですが、**海洋政策学部海洋政策文化学科**(海に関わりたい文系の人や、理系だけど大学では文系の勉強をしたい人向け)と**海洋工学部流通情報工学科**(物流メイン)は、2 次試験に数学がありますが、**文系からでも受験可能です**。

就職先については、商船大学からの伝統があること、きちんと実学を学べることから、商社を中心にほとんど苦労することがありません。みなさんが手にしている輸入品の99%は船によって運ばれていること、大手保険会社の社名に「**〇〇海上**」とつくことなどを考えると、実は海洋系の分野は重要であることがわかんと思います。また、海に関する資格も取れます。一生海に関わりたい人にとっては、これ以上ない大学であることは間違いありません。

ちなみに、同じような系統の学部として、**神戸大学海洋政策科学部**があります。こちらは「**神戸商船大学**」の流れを引き継いでいます。2021年に「**海事科学部**」から、「**海洋政策科学部**」という名称になりました。やはり理系の学部ではありますが、**文系科目で受験できる枠**があります。

富山大学 9学部ある総合大学・医学部・薬学部が看板だが、「都市デザイン学部」と「芸術文化学部」は興味深い

今、進路室の廊下に「**地方の国立大の魅力・学問系統版**」という資料を掲示しています。進路室近辺に来た人は目にしてくれていると思います。実はこの資料、富山大学が作っています(だからちょっと富山大学のコメントが多め)。たまたま偶然、富山大学の入試担当の方が来校したので、廊下に掲示したことを伝えたら、「これ、私が作ったんです」といたく喜んでくれました。すごく大変な作業だと思うので、まだ見ていない人は見てください。

さて、富山大学と言えば、やっぱり富山の薬売りでおなじみ**薬学部・医学部**だと思います。ちょっと複雑な経緯ですが、今の富山大学は、富山大学・富山医科薬科大学・高岡短期大学が2005 年に統合して再編されてできました。あれ?どっかの県ではそれがなかなかうまくいっていないのは…ゴホゴホ。他にも**工学部**あたりが地元とのつながりもあり、看板学部と言えます。また、ちょっと気になるのが**芸術文化学部**です。特殊ですが興味深い。

と、そこまでは知っていたのですが、入試担当の方が教えてくれたのが**都市デザイン学部**です。正直、こういった変わった名称の学部はどんなのかな、と思うところもあったのですが、この学部の中の**都市・交通デザイン学科**が、かなり面白そうでした。言われて納得したのですが、富山県は、様々な種類の鉄道が走っている県です。在来線・地方鉄道、LRT(路面電車)、トロック列車などなど。その地の利を生かして、**鉄道インフラなどの研究をする独特の学科**ができたそうです。担当の方は「鉄ちゃんはいませんか?おすすめですよ」と言っていました。その後、そういえば本校の地学教師が富山大学出身だったなと思い出し、そういう学部があるらしいねと話をしてみたら、「自分の卒業した学科が再編成されて、都市デザイン学部になったんです」と教えてくれました。なるほど、「**地学**」「**建設**」「**材料工学**」の分野が融合して「**都市デザイン学部**」となったわけですね。非常に興味深い学部だと思います。やはり、大学によっていろいろな特徴がありますね。